

## 平成25年度 第1回新宿区産業振興会議 議事要旨

【日 時】 平成25年4月16日(火) 午後1時～3時

【場 所】 BIZ新宿(区立産業会館) 多目的ホール

【出席者】 委員：植田浩史、川名和美、松尾武司、下吹越一孝、渡邊裕晃、志村一夫、加藤仁、富田篤、  
益田佳代子、酒井学雄、奥山龍一各委員

事務局：加賀美地域文化部長、中川産業振興課長、黒澤産業振興係長、菊池文化観光係長、久野主任主事、  
後藤産業創造プランナー

【欠席者】 河藤佳彦、河島正日各委員

【傍聴者】 1名

【内 容】

## 1 開会

植田浩史会長あいさつ

## 2 議事

### (1) 平成24年度第3回産業振興会議の確認

資料1に基づき、平成25年度第3回産業振興会議の内容を確認し、議事要旨は会長確認後、新宿区ホームページに公開済みと事務局より報告を行った。

また、前回会議で質問のあった「新宿文化観光ビューロー」の展開および現状について、事務局より説明した。

#### ○主な発言内容

- ・観光はそこに行く必然性というものがないければ客は来ないと思うが、どのような集客方法を考えているのか。  
⇒(文化観光係長)新宿というのは、非常に多様性のあるまちだと考えている。神楽坂や新大久保など有名なスポットになっているが、もっと新宿の魅力を外にPRしていかないと、なかなか分かってもらえないと考えている。海外から来る方だけではなく、都内の方や日帰りで遊びに来る方も視野に入れ、新宿のいろいろな文化資源を外にアピールして、新宿は楽しいまちだというものをつくっていきたい。
- ⇒(産業振興課長)特に歌舞伎町がさびれると新宿が寂しくなってしまうこともあり、『歌舞伎町タウン・マネジメント』が中心となって、歌舞伎町のセントラル通りから旧コマ劇場の回遊性を高めるために、まちづくりの側面から現在検討している。今後歌舞伎町はどのように集客していくのか、また新宿はいろいろな魅力をもっているため、それぞれの地域をどう発信していくのか、新宿区、観光の外郭団体である新宿未来創造財団、新宿区観光協会などの力を集約して取り組んでいく。新宿区はもっとパワーアップした姿で、渋谷や池袋には負けないということに取り組んでいくので、ぜひともご協力とご期待いただきたい。
- ・「新宿に行けばなにか楽しいことをやっている。」「行ってみたら素晴らしいショーやストリートダンスが見られた。」など、行ってみればワクワクできる、行くと何か楽しいことがあるかもしれないなどの期待をさせるまち、そのような魅力が新宿にはあるのではないか。  
⇒(文化観光係長)新宿区では10月の第1週に『新宿芸術天国』というお祭りを開催し、道路の使用許可を受け、新宿大通りでいろいろなパフォーマンスを繰り広げるといふ事業を展開している。また新宿に来るとワクワクする、楽しいというものをつくり上げていくために、公共空間やビルの公開空地、私有地の一角などを提供いただき、「街角スポット活用事業」というものに取り組んでいる。そこでは様々な音楽、パフォーマンスに触れることができる。そのスポットが拡充してくると、「新宿のまちに行くと、どこに行っても何かいろんな楽しいことをやっている。」というものが出てくるのではないかと考えている。そういったものを、新宿観光協会やシティープロモーション協議会といった組織が総合的に発信していき、新宿を訪れた方々に、新宿が楽しく魅力的なまちだと思っただけのようなまちづくりをしていくため、取り組んでいるところである。

- ・新宿のまちを百貨店や飲食店、映画や演劇などテーマごとにモデルを作り、この場所でこういうことができ、それにかかる所要時間などがガイドブックに載っていると、分かりやすいのでないかと感じた。  
⇒（文化観光係長）マップは地域別につくっているが、テーマごとの整理はなかなかできていない部分がある。マップを見ながらまち歩きができるのは大切なことだと思っているので、今後ネットなどで情報発信していく際、そのような視点も十分踏まえていきたい。
- ・産業振興会議としては、産業振興の産業の中には、観光産業や文化産業が含まれているという認識である。観光や文化というのは、その地域の企業の経営環境にとって、非常に重要なものであるため、今後も文化観光課とも協力していきたいと考えている。

## (2) 区立産業会館 10 周年イベントについて

資料3および4に基づき、2月7日に実施した区立産業会館の10周年イベントについて事務局より報告した。

### ○主な発言内容

- ・ビジネス交流会の出展者として参加し、交流した企業とその後いろいろ交渉したが、残念ながらあまり進捗はよくない。ただ、全く知らない企業と交流するよりは、優良企業表彰を受賞された企業や、所在地が新宿同士という点で話を進めやすかったと思う。新宿区が開催するビジネスマッチング事業で発生した話であれば、新宿らしさがあり、今後発展していく可能性があるというものに対し、助成するという考えがあってもよいと思った。
- ・交流会は企業同士がマッチングできるいい機会なので、いいものが生まれかかっているところを、少しでもサポートできるようなものをぜひ検討していただきたい。

## (3) 第1期報告書の原案について

資料5, 6, 7に基づき、産業振興会議の報告書の位置づけ、第1期報告書原案、各委員のコメントの作成について事務局より説明した。

### ○主な発言内容

#### 報告書の構成・内容

- ・第3章「検討事項」の構成について、最初に「施策」があり、次に「現状」「課題」が書かれているが、この書き方は、現在の支援策が現状との間でミスマッチを起こしてしまっていて、それゆえに課題が出てきていると読み取れる。先に「現状」があり、次に「施策」が、その後「課題」が来るという形も考えられ、現状に対して支援策が打たれていて、現状の変化で対応する中で、課題や不十分なところも出てきているというニュアンスがあるので、後者の構成にした方がいいのではないか。
- ・報告書の原案の中に、情報産業という言葉は出てこないが、新宿区の特異性という点で強調してはどうか。
- ・この報告書に今まで挙げた事例や先進的な事例を挙げ、それに対する産業振興会議での評価を取り入れると、新宿区で新しい動きが始まっていると表現できるのではないか。この報告書を読んだときに、誰が何をやってきたのか、人の顔が見えるケースが入っているといいと思う。大学との連携事例、単に学生がたくさんいるというだけではなくて、大学の人材を商店街が活用していること、中小企業が産学連携で取り組んでいることなど、新宿区ならではの事例が入ればいいと思う。
- ・第1期で議論してきたことは2年分しかないため、具体的な施策として大幅に変わったものというのではないと思う。議論した結果施策に反映されたところと、議論を活かした形で新しく起きてきたこと、産業振興会議が注目している事例、今後広く進めていく必要があることなどを取り上げた方がいいのではないか。
- ・産業振興会議の中で議論されるべきテーマがまだまだたくさんあると認識している。第4章で新たに、今回議論されなかったところ、今後第2期の会議で議論されるべきところを示し、時間をかけて整理したほうがいいと思う。この報告書を読んだ方が「検討事項」の3点を見て、これだけしか検討していないのか感じてしまうことにもなりかねないので、今回はこの3点を検討したか、検討事項はもっとたくさんあることを示した方が

よりいいものになるのではないかと。

#### 中小企業活性化支援

- ・産業振興基本条例の目的の一つに、中小企業の自助努力を促すといった条文がある。自助努力を促進する触媒的機能を果たす施策が必要だと思い、会議で発言したことがあるが、その表現が弱い気がするので追加していただきたい。
- ・「他の機関との連携」として、国の施策の一つに、金融円滑化法が期限切れになり、そのセーフティネットとして、経営改革をするための機関に金融機関や会計事務所、税理事務所、コンサルタント会社等を認定している。その機関に求められているのは、実現可能な抜本的な経営計画を立てることである。中小企業の一番弱いところは、計画なく経営していることで、経営計画を立てると積極的に前に向かって動き出せる。それが自助努力を促進、誘発するという機能ではないのかなと思う。区はその認定機関と連携し、セーフティネットをつくり、区内企業の経営力を高めていくような施策を考えてもいいのではないかと。
- ・経営計画を立てる必要性、重要性を認知させて、施策や支援を区が積極的にアナウンスする。
- ・大きな病院が新宿にはいくつもあり、大学をはじめ専門学校もたくさんあるので、それらとの連携ということで、事業の公募というのを考えてもいいのではないかと。

#### 今後検討すべき事項

- ・産業振興会議での“新宿区の産業”というものを、どう考えればいいのかという議論をきちんとやらなければいけないと思っている。観光、文化、情報、大学、医療というのも産業と密接な関係を持っていて、それは産業でもあり、その経営環境でもある。こういうものも含めた形で新宿の産業をどのように考えていけばいいのか、どういう視点で見ればいいのか、きちんとどこかで議論していかないといけない。今回はなかなかそれができなかったが、いずれは産業振興ビジョンの中で、新宿の産業をどうとらえていくのか、非常に大事になってくるので、いろいろな視点で出てきた意見をまとめていただきたい。
- ・今後検討していく事項として、「新宿の特色」と産業をどう考えるのかということと、産業振興会議をどういう位置づけで考えていくのか、その二つは補足的なものとして、報告書に残しておいていただきたい。
- ・産業振興会議をどういう位置づけで考えていくべきなのかということで、今回会議を行って非常によかったのは、委員同士で新しい動きが現実に出てきたこと、新たなネットワークの場として機能しているということである。産業振興会議がそのような機能も果たしている場だということ伝えておきたい。
- ・産業振興会議の議論で何が足りないのか考えてみると、次の世代を育てる仕組みというのが入っていない。
- ・これからの産業を担っていく人材育成をどう考えていくのかなど意見も出ていたと思うので、これは付け加えていただきたい。
- ・「施設」の項目では、あまりインキュベーション施設のことが書かれていないが、区のインキュベーション施設を巣立った人が区外に出てしまうということが問題視されている。他の自治体の施設も同様で、東京であれば交通手段もいろいろあるので、その区で事務所を構えなくても問題がなく、区外に出ていってしまうというのはいくらもある話である。流出しないような仕組みをつくるというのは必要だと思う。段階的な対策として、インキュベーション施設で創業者を育て、巣立つときに事務所を紹介するということが考えられる。新規創業者の事務所として、いきなり大きな商業施設のテナントとして入ることは難しいので、まず商店街に店舗を出すという考え方もある。創業のふ化器という意味でも商店街は重要な役割を占めていると考えられ、東京の商店街はそういう機能があり、商店街の活性化にもつながると思う。創業支援として、インキュベーション施設設置、その次の段階で何を考えているかと問われたときに、商店街で事務所を出せるところを紹介するといった事務所の情報提供を行うなど、次の段階、ステージごとにサポートできる体制をつくるということは必要ではないかと思う。

## 商店街活性化支援

- ・今商店街が非常に切迫していて大変な時期に差し掛かっている。商店街もエリアマネジメントを考える時代に入ってきているのではないかと。駅周辺の商店街はいいが、駅から離れ地域の中に溶け込んでいる商店街が、きわめて衰退している。今後、商店街は独自で何かをやることができなくなるのではないかと。思う。「商店街のあり方」で、町会やPTA、NPO法人などの地域との協力について書いてあるが、もう少しきちんとした形で方向性を表現できないだろうか。
- ・中小企業庁の新しい支援策に、商店街を活性化させるためのしくみや予算があるようだが、問題はそれを受ける側が、受けるだけの体力がないとか、やる気がないのではないかと。支援を受けるということは、受ける側もそれなりの覚悟を決めて、支援を受ける体制をつくっていかねばいけない。
- ・企業が持っている商店街活性化の企画やアイデアを、商店会の誰に連絡、提案をしているのか、提案先がわからない。助成制度などがあれば提案してくる企業はあると思うので、提案する企業と商店街の活性化を求めている商店会とを、行政が結びつけてあげられればお互いうまくいくのではないかと。
- ・商店街施策の申請の際には、商店街組織の財務状況はもちろんだが、若手と女性がどれだけ取り組まれているかの記載欄があるなど、次の世代を育てる仕組みがあるかどうかというのは、書面に書けるぐらいに体制を整えておかねばいけない。
- ・商店街の活性化を行う場合、大学やNPO法人、企業など、外部との連携が重要になってきている。
- ・商店街の今後のあり方について、商店街の現状があつて、商店街のあり方で担い手が少なくなっているのに、NPOなどとの連携が報告書の原案に書いてあるが、そのNPOの情報が足りないのではないかと。まちづくりの活動しているNPOは新宿区にはたくさんあると思われ、地元意識が強い方が多く、子育てネットワークやお年寄り見守りネットワークなど、NPOの活動情報をきちんと集約し、商店街がまちづくりと連動していくことは、産業振興の面でも重要ではないかと思う。産業振興基本条例の目的は、単に中小企業のことだけではなくて、地域、学校、医療、支援機関の人たちみんなで、地域の中小企業のことを考えていかねばいけないということである。それをもとに考えると、商店街の問題であれば、NPOの情報を集めて連携をしやすいとするというのは、行政の役割として必要ではないかと思う。
- ・商店会連合会では若手プロジェクトチームをつくったが、なかなかうまくいかない。外部と連携し刺激をしながら活動していきたいと思っている。地域のグループ活動として、若手プロジェクトが発表する場や、商店と関係ない人がディスカッションするなど、そういうものも必要かもしれない。
- ・ネットで店情報とマップが連動しているといいと思うので、区や振興組合で、商店街を網羅したそのようなものをつくってもらえると検索もしやすいのではないかと。
- ・中井で実施している染のイベントは、地元の人たちの働きかけで始まったが、商店街ももっと自分たちのこととして活用してもいいのではないかと。前向きに考えれば、さらにまちおこしもできるのではないかと。
- ・商店街が活気づくために、若い人材が店を開けるように整備し、アイデアをいろいろもっているNPOなどと結びつくことを考えてはどうか。

## 施策の方向性

- ・「中小企業」の項目で、施策を有効に活用してもらうためにいろいろ書いてあるが、区として考えるときに、区は区内の企業に対する支援として、区の施策を使ってもらうだけではなく、国や東京都の施策を有効に活用してもらうことも、区の支援策であるというスタンスを持つべきである。区の施策をどう使ってもらうのかという事しか書かれていないので、それだけでは不十分ではないかと思う。
- ・国や東京都の施策にどのようなものがあるのか、区が周知することも必要ではないかと。
- ・国や都の事業では仲介役や中間の事務局を、行政が民間企業を公募して、流れをうまくつないでいる場合もあるので、新宿区でもそのようなことを考えてもいいのではないかと。
- ・いろいろな人、機関、会社が介在しないと具体的にものが進まないということが多い。そういうことを進めて

いこうとするならば、いろいろな組織と、連携やネットワークの情報をどれだけ持てるかで、プランがうまくいくかが決まってくる。そのような話を全部行政が抱え込むのは無理だと思うので、情報収集と発信、広がりを持たせてあげるといことを行政が担うといい。ネットワークのつながりのどこかが欠けると、物事が進まないということが多くなってくると思うので、そういうところは意識的に追及していかなければならない。

- ・成果につながるキーは区だけではなくネットワークが必要だと書かれているが、すでにいろいろなところで、いろいろなことを実施しているので、お互い協力し合い、情報交換しあって進めていくことが必要で、具体的に進めていく仕組みを考えていく必要がある。議論の中で、大学や金融機関などで、「このような形でできるのではないか。」という事例が出てきているが、産業振興会議や区でくみ上げて、生かし切れていないところがありもったいない。それは産業振興会議の場だけでは無理なので、プロジェクトチーム化していただくか、産業振興会議とは直接関係ない形で、区で新たにプロジェクトチームや検討チームをつくって、例えば金融機関や大学と具体的にどうかかわっていけるのか、ピンポイントな形で議論していける場を、産業振興会議からスピアウトしてつくっていくのもいいのではないか。

#### **産業会館活用**

- ・飲食ができることももちろん大事だが、飲食自体が重要ということではなく、飲食を介する交流という場所が必要ということではないか。飲食を伴うことで、活発に交流ができコミュニケーションが図れるのであればいいと思う。

### **3 次回日程について（予定）**

平成25年度第2回産業振興会議

日 時：平成25年7月2日（火） 午後3時～5時

会 場：B I Z新宿 多目的ホール

### **4 閉会**

【配布資料】 省略